

農研NOW

創刊号

夏号

平成24年7月

創刊号の発刊によせて

農業研究センターは平成23年に農業の試験研究機関として、設立100周年の節目を迎えました。

これまで、関係機関と連携しながら熊本県農業を支える技術開発に努めてまいりました。

これからも、稼げる農業をめざして、地域に立脚した試験研究を進めていきます。

もっと身近な存在へ

農業研究センターは、農業を取り巻く様々な問題を解決するため、新たな技術、新たな品種を生み出す試験研究を行っています。

この「農研NOW」では、現在取り組まれている試験研究の内容やその目的、すでに成果となった技術や品種の紹介やその他役に立つ情報を紹介します。

もっと身近な存在として、農業研究センターの「今」を感じてください。



目次

稼げる農業を目指して P.1
今、試験研究中の課題はこれ

Q&A テクノロジー P.3
タメになるミニミニ情報

農研タイムトラベル P.4
農業研究100年の歴史

こんなものあるよっ P.4
視察研修ならこれいかが？

稼げる農業を目指して

—現在取り組んでいる試験研究課題の紹介—

農産園芸研究所 (作物部門)



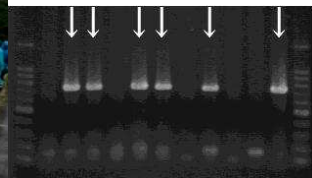
原原種の収穫

(シロガネコムギ系統 H24.6.6)



奨励品種の選定

(調査品種の田植え H24.6.21)



遺伝子マーカーを使った特性調査

(縞葉枯病抵抗性遺伝子)

米・麦・大豆の品種の育成と選定（育種は水稲のみ）、栽培技術の改良開発や種子の原原種生産※を行っています。
※原原種から原種が、原種から採種、採種から一般に利用される種子が作られます。

(1) 水稲新品種の育成

これまで「森のくまさん」や「くまさんの力」等を育成してきました。現在は平坦地から高冷地域の気候や作型に適した特徴ある品種の育成に取り組んでいます。特に、主食用では良食味や耐暑性を備えることを基本としながら、外食向けにも対応できるよう、既存品種に比べ多収で、安定して高品質が得られる、品種の育成を目指しています。

(2) 奨励品種の選定

県や国などが育成した品種から、高品質、多収等で本県の販売戦略や栽培条件に適した品種を選定するため、農研センターと現地(2年以上)で試験を行っています。

(3) 栽培技術の改良と開発

水稲では登熟期の高温や日照不足による中生品種の品質低下(充実不足)の改善や、小麦「ミナミノカオリ」や大豆新品種「すずかれん」の品種特性に応じた生産安定試験等を実施中です。

ラボからこんにちは

農業研究センターは、県内各地に点在する、7つの専門研究所と3つの地域研究所の合計10の研究所以から構成されています。

このコーナーでは、これらの研究所以をピックアップして紹介します。



レイシ

天草農業研究所



この研究所は、天草市本渡町にある、地域対応研究所です。

天草地域の海岸島しょの温暖な海洋性気候を最大限に活かし、高品質・低コストの売れる農産物づくりをめざして、品種の選定や、栽培技術の改善のため技術確立に取り組んでいます。

具体的には、主に作物園芸部門では、甘長トウガラシやミニトマトに関する研究を、果樹部門では中晩柑、レイシ(ライチ)、ピワに関する研究を行っています。

DATA

天草市本渡町本戸馬場

636

tel 0969-22-4224



トマトのウイルス病及び媒介虫



生産環境研究所の施設とほ場

生産環境研究所 (病害虫部門)



イネ南方黒すじ萎縮病の試験水田

※保毒虫が外に広がらないようにネットで覆っています

地球温暖化や国際的な物流の増加により新たな病害虫が頻発しているため、発生生態や被害を調査して、効率的な防除技術を研究しています。

(1) イネの病害虫対策

セジロウンカが伝染させるウイルス病(南方黒すじ萎縮病)対策と新規需要米に対するトビイロウンカ対策の研究をしています。

南方黒すじ萎縮病は、まだ症状や被害も分かっていないため、ウイルスを持ったウンカを水田に放したり、ウイルスを接種したイネを育てて、薬剤効果や症状、被害を調べています。

また、主食用米とウンカ類の発生を比較して、新規需要米に適した防除方法や体系を研究しています。

(2) 野菜の病害虫対策

施設栽培トマトの葉かび病の防除対策として新たに発生したレース(系統)を調査し、防除技術の確立をめざしています。トマト黄化葉巻病対策としてウイルスワクチンの利用技術の開発に向けた研究を行っています。

また、2012年に廃止される臭化メチルに替わるショウガ根茎腐敗病に対する体系防除技術の開発を進めています。

草地畜産研究所

近年の輸入穀物飼料(トウモロコシなど)の価格が高騰しているため、「自給飼料の増産」と「草資源の有効利用」という目的から放牧への期待と関心が高まっています。

一方、阿蘇地域には、約2万2千haに及ぶ豊富な草資源があり、放牧や採草に利用されています。草地畜産研究所では、この環境を最大限に活用した試験研究に取り組んでいます。



草地畜産研究所での放牧



放牧肥育



一般の肥育

(1) 放牧肥育技術の確立

あか牛の放牧が牛肉の成分に与える効果の調査や、放牧肥育の適正肥育期間の検討を行っています。また、放牧を行いながら、飼料用の米などの国産飼料を利用した肥育技術の確立を目指しています。

(2) 親子放牧技術の検討

低コストで省力的な親子放牧を推進には、繁殖成績と子牛の発育の改善が必要です。このため、あか牛の新たな親子放

牧の方式を試験しながら、最も適した親子放牧技術を検討しています。

(3) 農用馬の繁殖技術の開発

熊本県は全国でも有数の馬産県ですが、その生産体制はまだ確立されていません。そこで、牛では一般的に行われている、人工授精を農用馬でできるようにするため、技術開発を行っています。

ラボからこんにちは



不知火

果樹研究所



この研究所は、宇城市松橋町にある、果樹の専門研究所です。

ここでは常緑果樹研究室、落葉果樹研究室、病虫化学研究室の3つのセクションで、果樹に関する様々な研究が行っています。

常緑果樹研究室では主に温州ミカン、不知火（デコポン）、中晩柑などを、落葉果樹研究室では主にナシ、クリ、ブドウ、カキ、モモなどの果樹について、品種の育成や選抜、栽培技術の開発に関する研究を行い、病虫化学研究室では主に防除技術や施肥技術の開発に関する研究が行っています。

DATA

宇城市松橋町豊福2566
tel 0964-32-1723

Q&A テクノロジー

Q: 育成者権ってなに？

A: 農作物には種苗法に基づき品種登録されたものがあります。品種登録されたものは、それを育成した人に対し、いくつかの権利が与えられます。この権利を育成者権といいます。

育成者権には、他人が勝手に



登録された品種の生産・譲渡（販売を含む）などができないという権利があります。（農家の自家増殖等例外があります）

つまり、育成者権は品種を育成した人の功績を守るとともに、開発品種を用いた産地が正当な競争を行うための環境づくりに不可欠なものです。

ラボからこんにちは



茶業研究所



この研究所は、上益城郡御船町にある、お茶の専門研究所です。

ここではその名前のとおりお茶に関する研究が行われています。

球磨農業研究所と共に、品種の選定や栽培技術など、特徴あるお茶製品づくりの実現をねらい、技術開発を行っています。

DATA

上益城郡御船町大字
滝尾5450
tel 096-282-6851

農研タイムトラベル

熊本県農業研究センターは、現在の合志市に設立されてから、今年で24年ですが、農業の試験研究機関としては、昨年100周年を迎えました。

そこで、今回は明治44年に創立した熊本県農事試験場について紹介します。

明治27年に「府県農事試験場規程」が公布され、これに基づいて、明治44年に飽託郡出水村国府(現熊本市菅原町)に国の試験

場の隣に設置されました。

最初の職員は場長と6名の職員のみで、施設は本館等12棟、約920㎡、ほ場面積は水田87a、畑105aでした。

なお、創立当時の予算は11,816円で、収入は生産物売上代224円でした。

当時の県内の農業は、米麦の栽培が中心であったため、試験研究もこれに関した内容が大半でした。



大正元年の地図
(背面は現在の地図)

こんなものあるよっ!(7~10月)

●農産園芸研究所、生産環境研究所(合志市)

農産園芸研究所・生産環境研究所合同成果発表会(8月7日)

●果樹研究所(宇城市)

熊本県カンキツ研究大会(7月上旬)、熊本県ナシ研究大会(7月12日)、
果樹研究所成果発表会(7月下旬)

●茶業研究所(御船町)

熊本県茶品評会(7月12日)

●い業研究所(八代市)

熊本県い草い製品品評会審査及び表彰式(10月中旬)

詳しくは、各研究所にお問い合わせください

農研NOW 夏号 平成24年7月



〒861-1113
熊本県合志市栄3801
tel 096-248-6411
fax 096-248-7039
www.pref.kumamoto.jp/site/493
noukenkikaku@pref.kumamoto.lg.jp

本紙の内容に関するお問い合わせは、
企画調整部 情報課
までご連絡ください

管理部

総務課
経理課
096-248-6412

企画調整部

企画課
情報課
096-248-6423

農産園芸研究所

作物研究室
矢部試験地
バイオ育種研究室
花き研究室
野菜研究室
096-248-6444

生産環境研究所

環境保全研究室
土壌肥料研究室
施設経営研究室
病害虫研究室
096-248-6447

畜産研究所

大家畜研究室
中小家畜研究室
生産基礎技術研究室
飼料研究室
096-248-6433

茶業研究所

096-282-6851

い業研究所

育種・栽培研究室
加工研究室
作付体系研究室
0965-52-0372

草地畜産研究所

0967-32-1231

果樹研究所

常緑果樹研究室
落葉果樹研究室
病虫化学研究室
0964-32-1723

高原農業研究所

0967-22-1212

球磨農業研究所

0966-45-0470

天草農業研究所

0969-22-4224